

2018 年卒
Vol.7

6 月 1 日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2018 学生モニター調査結果 (2017 年 6 月発行)

2018 年卒業予定者の採用面接が今月 1 日に正式に解禁された。

6 月 1 日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は 6 割を超える高水準をマークしていたことがわかった。

1. 6 月 1 日現在の内定状況

- 内定率は 63.4%。前年同期調査 (54.9%) を 8.5 ポイント上回る
- 就職先を決定し活動を終了したのは、全体の 28.8%。就活継続中は 71.2%。

2. 内定を得た企業の属性

- 「情報処理・ソフトウェア」が依然最多。2 位は「建設・住宅・不動産」
- 内定企業の従業員規模は、1,000 人以上の大手企業が過半数 (58.4%) を占める
「5,000 人以上」(27.5%) の割合が 5 月 (24.0%) より増加

3. 未内定者が内定を得る見通し

- 未内定者のうち 7 割強が「内定の見通しが立っていない」

4. エントリー社数とセミナー参加社数

- エントリー社数の平均は 37.5 社。5 月 (35.9 社) から 1.6 社の微増
- 企業単独セミナーへの参加社数は 15.3 社。先月 (14.1 社) からの伸びは 1.2 社にとどまる

5. 選考試験の受験状況

- エントリーシートの提出社数は 15.4 社。前年 (15.9 社) をやや下回る
- 選考試験の平均受験社数は、筆記 10.6 社、面接 7.6 社。いずれも前年同期より減少

6. 就活継続者の今後の動向

- 選考中の企業は平均 4.0 社。受験予定を合わせた持ち駒企業は 6.4 社。
- 今後のエントリー予定社数は 2.3 社。新たな企業を探す手段は「就職情報サイト」80.6%

7. インターンシップ参加企業の本選考への応募と内定

- インターン参加企業の本選考への応募は 78.8%。応募者の 44.4% が内定獲得
- 本選考への応募理由は「インターンシップを通じて志望度が高まった」(58.9%) が最多

8. 内定後のフォロー

- 内定を得た企業からすでに受けたフォローは「食事会などの懇親会」(62.9%) が最多
- 実態に比べ希望する学生が多いのは「現場社員との面談」「社内や施設などの見学会」など

調査概要

- 調査対象 : 2018 年 3 月に卒業予定の大学 4 年生 (理系は大学院修士課程 2 年生含む)
回答者数 : 1,259 人 (文系男子 421 人、文系女子 350 人、理系男子 325 人、理系女子 163 人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2017 年 6 月 1 日~5 日
サンプリング : キャリタス就活 2018 学生モニター (2016 年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

1. 6月1日現在の内定状況

就職活動スタートから3カ月。6月1日現在の学生モニターの内定率は63.4%。先月調査(5月1日現在)の37.5%から1カ月で25.9ポイント増と、大きく上昇した。これは前年同時期(54.9%)を8.5ポイント上回る数字であり、前年よりも企業の内定出しが早まった様子が表れている。

63.4%というのは、5年前の2013年卒者の6月の内定率(62.3%)と同水準であるが、当時の選考解禁は今より2カ月早い4月1日であったことを考えると、いかに今年の内定出しが早いのがわかる。深刻な人手不足を背景に、優秀な人材の確保に危機感を募らせる企業の姿が透けて見える。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは40.2%。前年同期(30.7%)を10ポイント近く上回り、就職先決定のタイミングも早まっている。ただし、内定者のうち過半数(54.6%)は就職活動を継続していると回答した。

6月1日現在の内定状況

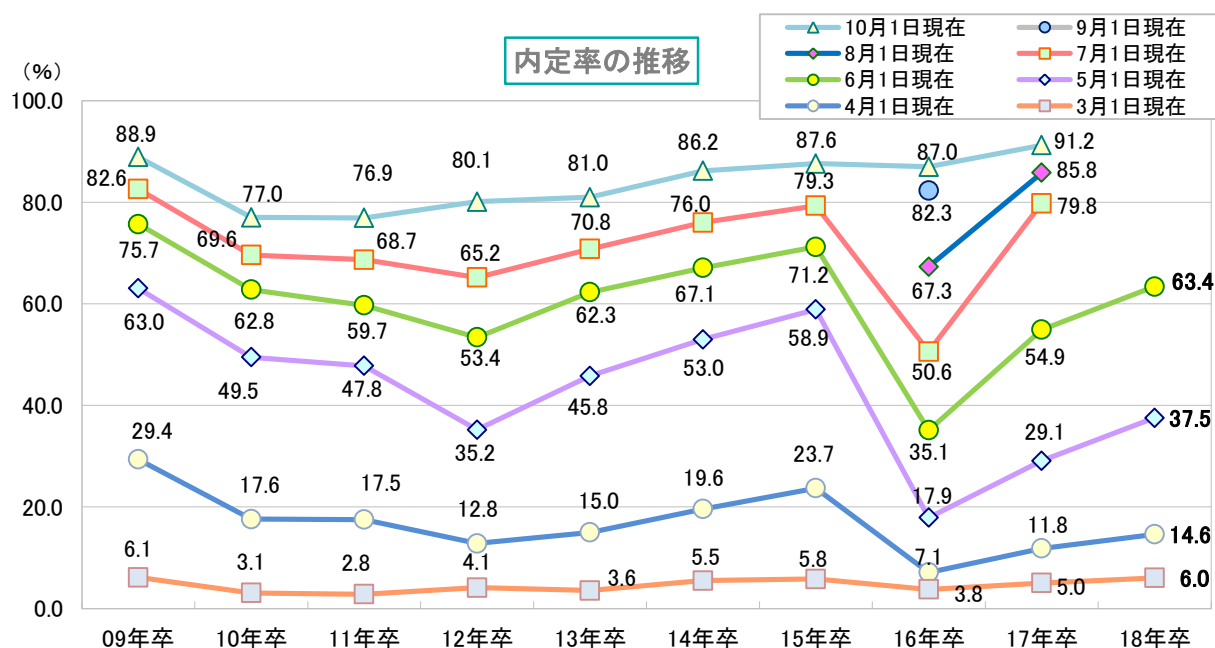
*「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		63.4 (54.9)	55.8 (50.9)	62.9 (56.0)	68.9 (57.3)	73.0 (57.9)
内定なし		36.6 (45.1)	44.2 (49.1)	37.1 (44.0)	31.1 (42.7)	27.0 (42.1)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	40.2 (30.7)	29.8 (21.6)	30.5 (20.5)	52.7 (54.3)	55.5 (31.0)
	活動は終了したが複数内定保持	4.9 (5.1)	3.4 (4.0)	5.0 (4.9)	6.7 (5.5)	4.2 (7.1)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.3 (0.3)	0.4 (0.0)	0.0 (0.5)	0.4 (0.6)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	54.6 (64.0)	66.4 (74.4)	64.5 (74.1)	40.2 (39.6)	40.3 (61.9)

(社)

		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		1.9 (1.9)	2.0 (1.9)	1.7 (1.7)	1.9 (2.0)	2.1 (2.1)

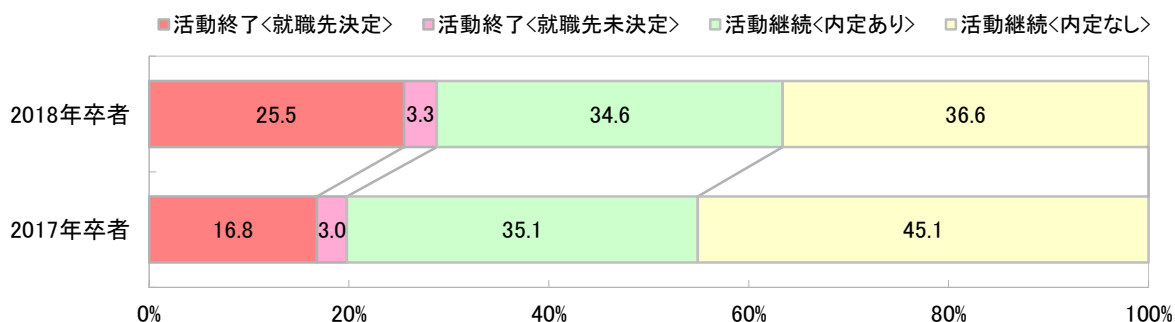
※ () 内は前年(6月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17卒・18卒は6月 ※15年卒以前は8月、9月のデータはなし

モニター学生全体を分母にとると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は 25.5%。複数内定を保留しているなど未決定である者 (3.3%) を合わせると 28.8% となる。4人に1人に上り、前年同期 (19.8%) より 9.0ポイント多い。一方で、活動継続者は「内定あり」(34.6%)、「内定なし」(36.6%) を合わせて 71.2%。内定の有無に関わらず、多くの学生にとって6月が大きな山場であることは間違いなく、この1カ月の動きに注目したい。

学生モニター全体の活動状況



2. 内定を得た企業の属性

6月1日現在で内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた。(全 40 業界)
 5月調査に引き続き「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」が最も多く、28.7%と依然内定が集中している。理系女子以外の属性で1位であり、特に男子は文理とも3割を超えている。
 2位は「建設・住宅・不動産」(14.8%)。3位は「医薬品・医療関連・化粧品」(10.9%)で、理系女子の4割近く(38.7%)が内定を得ている。
 前年同期調査で4位だった「保険」は7位に(7.6%)、同5位だった「銀行」は14位に下がったが(5.1%)、他業界の内定出しが早まった結果、相対的に金融業界の順位が下がったと見られる。

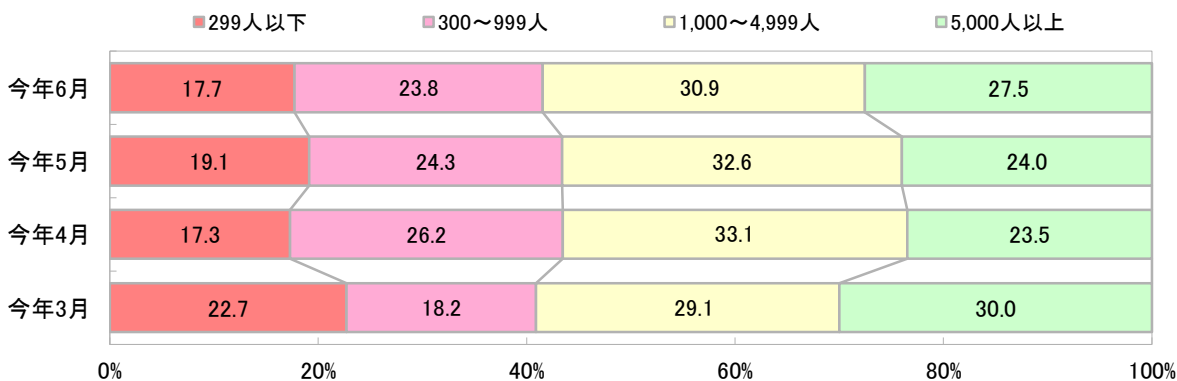
内定を得た業界 (上位 10 業界)

		※6つまで選択 (%)				
	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ① 28.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 30.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 24.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 30.4	医薬品・医療関連・化粧品 38.7	
2	建設・住宅・不動産 ② 14.8	建設・住宅・不動産 16.2	保険 15.0	建設・住宅・不動産 19.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 29.4	
3	医薬品・医療関連・化粧品 ⑪ 10.9	運輸・倉庫 12.8	調査・コンサルタント 11.4	電子・電機 19.2	素材・化学 16.0	
4	調査・コンサルタント ③ 10.2	コンビニエンス・GMSストア 10.6	商社(専門) 9.1	自動車・輸送用機器 14.7	建設・住宅・不動産 15.1	
5	電子・電機 ⑧ 8.9	調査・コンサルタント 10.6	建設・住宅・不動産 8.6	機械・プラントエンジニアリング 13.4	水産・食品 11.8	
6	自動車・輸送用機器 ⑦ 8.5	情報・インターネットサービス 10.2	銀行 7.7	医薬品・医療関連・化粧品 12.5	調査・コンサルタント 10.9	
7	保険 ④ 7.6	商社(専門) 9.4	自動車・輸送用機器 6.8	素材・化学 8.5	自動車・輸送用機器 9.2	
	情報・インターネットサービス ⑥ 7.6	保険 8.5	情報・インターネットサービス 6.4	情報・インターネットサービス 8.0	その他サービス 8.4	
9	運輸・倉庫 ⑩ 6.4	銀行 7.7	人材紹介・人材派遣 5.9	調査・コンサルタント 8.0	機械・プラントエンジニアリング 7.6	
10	商社(専門) ⑩ 6.1	証券・投信・投資顧問 7.2	運輸・倉庫 5.0	人材紹介・人材派遣 6.7	人材紹介・人材派遣 5.0	
					精密機器・医療用機器 5.0	
					電子・電機 5.0	

※○の中の数字は前年調査の順位

また、内定を得た企業の規模もあわせて尋ね、その比率を算出した。3月調査から一貫して従業員1,000人以上の大手企業が過半数を占めてきたが、6月調査では「5,000人以上」の占める割合が増加した。学生から報告された社名を見ると、経団連加盟企業を中心とした大企業が多く挙がっており、こうした企業が選考解禁後にスピード内定を出したことが想像できる。

内定を得た企業の従業員規模



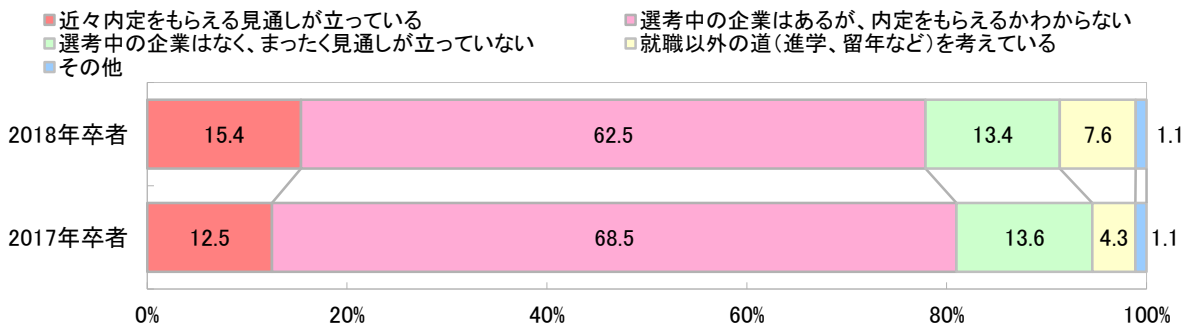
※複数の企業から内定を得た学生がいるため、100%換算し、算出した

3. 未内定者が内定を得る見通し

6月1日現在で内定を得ていない学生に内定の見通しを尋ね、前年同期調査と比較してみた。「近々内定をもらえる見通しが立っている」が15.4%で、前年(12.5%)を2.9ポイント上回る。ただ、最も多いのは「選考中の企業はあるが、内定をもらえるかわからない」(62.5%)で、ここに「選考中の企業はなく、まったく見通しが立っていない」(13.4%)を足し合わせると75.9%になり、未内定者の7割強が先の見えない状況にあるようだ。また、「就職以外の道(進学、留年など)を考えている」は前年(4.3%)よりやや多い7.6%。選考解禁直後にもかかわらず、早々に来春の就職を断念する学生が出始めている。

未内定者が内定を得る見通し

※未内定者が回答



■未内定学生の声

- 選考が進むにつれ、もっと早く動いていればよかったと感じることが多々あった。 <文系男子>
- 6月末には終わっているものだと思っていたので、今とても焦りを感じる。 <文系女子>
- 持ち駒が減ってきており、自分にとって理想的な就職先を見つけられるか心配。 <理系男子>
- 企業によって選考のスピードが違うにもかかわらず、早く内定をもらっている人が優秀だと言われることが腑に落ちない。 <理系女子>

4. エントリー社数とセミナー参加社数

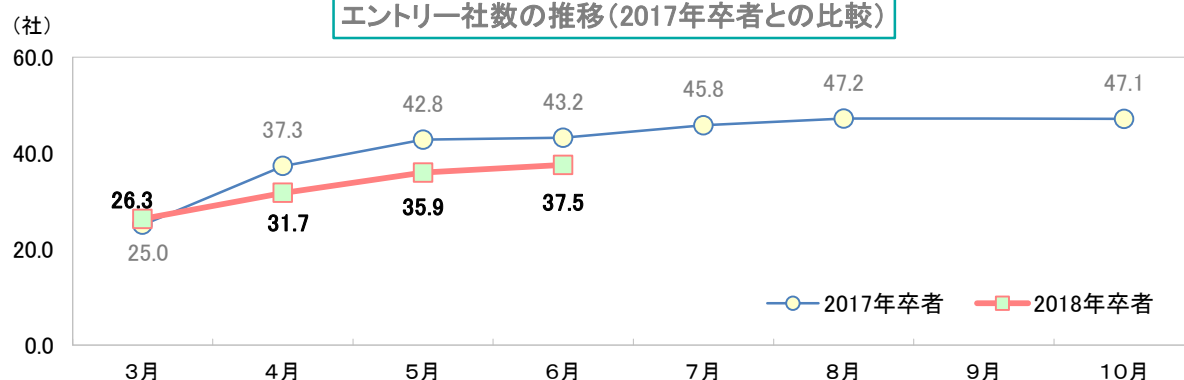
6月1日時点での就職活動量について、先月調査(今年5月)や前年度調査と比較しながら確認してみよう。まず、一人あたりのエントリー社数の平均は37.5社で、5月時点の35.9社からの増加は1.6社。3月時点では前年を上回っていたが、その後のエントリーの伸びは鈍い。早い段階から企業を絞り込み、途中で新たな企業へと関心を広げることが少ないまま就職活動を進める学生が多かったことが推測できる。

6月1日現在のエントリー社数

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー社数	37.5	43.3	39.6	29.3	34.6

(社)

エントリー社数の推移(2017年卒者との比較)



※2017年卒者は9月調査なし

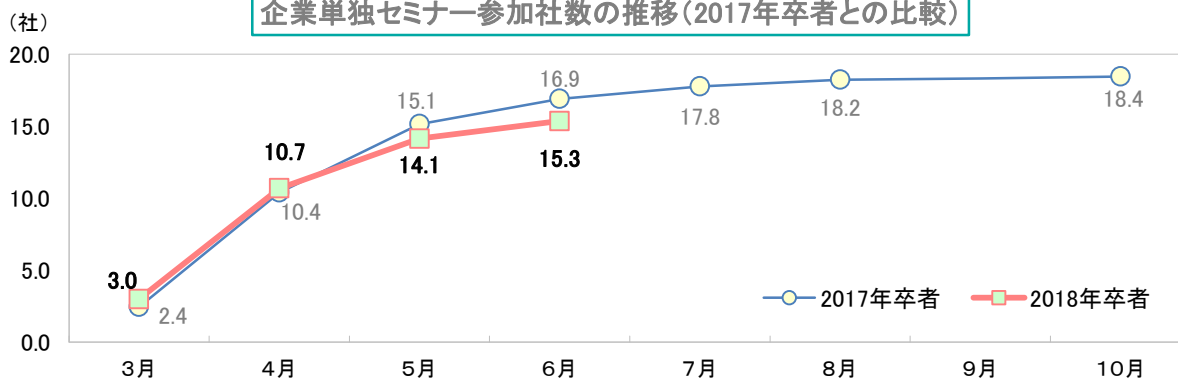
次に企業単独セミナーへの参加社数を見ると、エントリー同様に先月調査からの伸びは小さく、1.2社増の15.3社にとどまった。3月から4月にかけて前年同期を上回っていたものの、その後ペースダウンし、前年との差は先月調査よりさらに開いた。

6月1日現在のセミナー・会社説明会参加社数

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
セミナー・説明会参加社数	36.5	41.3	39.2	29.8	31.6
企業単独開催のもの	15.3	18.0	16.7	11.8	12.5
合同開催のもの	12.1	14.1	13.3	9.1	10.5
学内開催のもの	9.0	9.1	9.2	8.8	8.5

(社)

企業単独セミナー参加社数の推移(2017年卒者との比較)



※2017年卒者は9月調査なし

5. 選考試験の受験状況

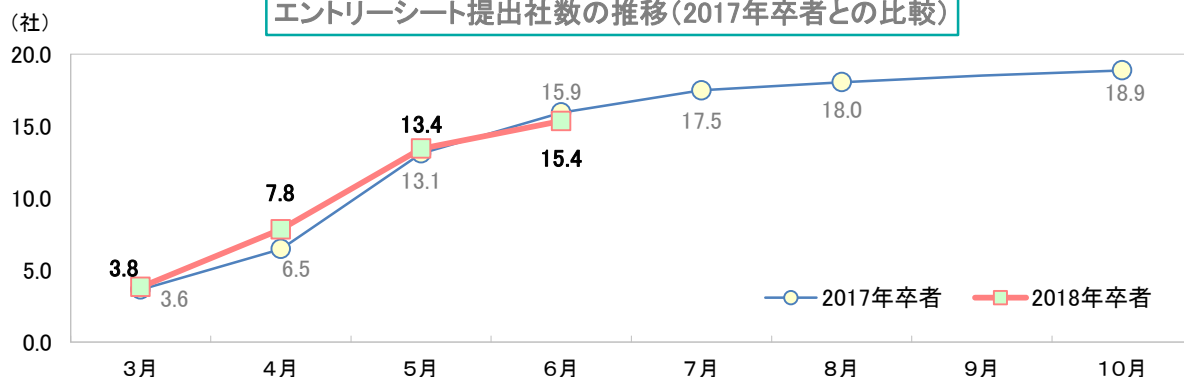
選考試験についても社数を確認してみよう。エントリーシート (ES) の提出社数の平均は 15.4 社。先月 (5月) からの増加は 2.0 社で、前年同期 (15.9 社) をやや下回った。3月から5月の ES 提出社数が前年より多かったのは、提出時期が前倒しになっていたからだと解釈できる。

筆記試験や面接試験に関しても、いずれも前年同期を下回った。面接試験社数の推移を見ると、ES 提出同様に3月から5月は前年を上回っていたが、この6月で前年を下回った。企業が面接を前倒ししていた様子が表れており、内定出しが早まっている結果とも一致する。

6月1日現在のエントリーシート提出社数

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート提出社数	15.4	17.3	16.0	12.6	14.4

エントリーシート提出社数の推移 (2017年卒者との比較)

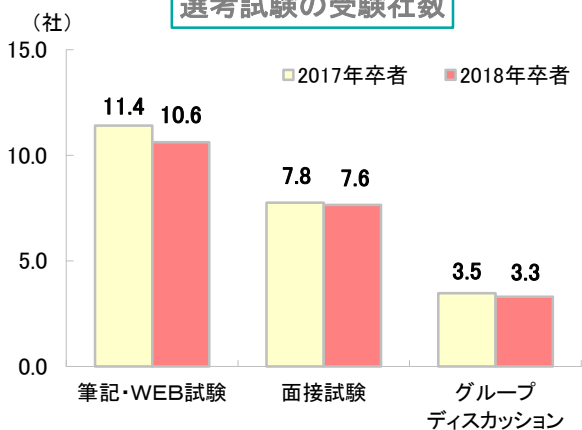


※2017年卒者は9月調査なし

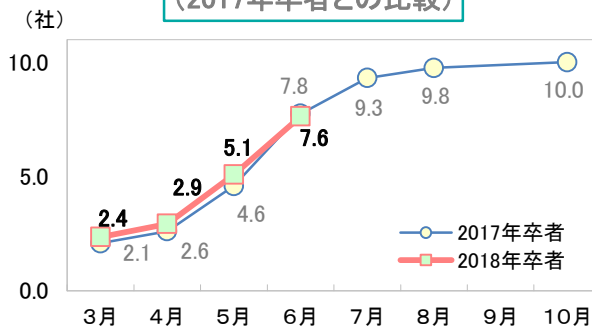
6月1日現在の選考試験受験社数

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
筆記・WEB試験	10.6	11.9	11.0	9.1	9.5
面接試験	7.6	8.7	7.8	6.5	7.0
グループディスカッション	3.3	3.8	3.1	3.0	3.0

選考試験の受験社数



面接試験社数の推移 (2017年卒者との比較)



※2017年卒者は9月調査なし

6. 就活継続者の今後の動向

内定保持者も含め、就職活動を継続している学生（モニター全体の 71.2%）の、現在選考中の企業数は平均 4.0 社。これから受験予定の企業数（2.4 社）をあわせると、いわゆる持ち駒企業は 6.4 社。

今後のエントリー予定社数は内定の有無で差が大きく、「内定あり」の学生は 1.4 社だが、「内定なし」の学生はその 2 倍以上の 3.2 社。

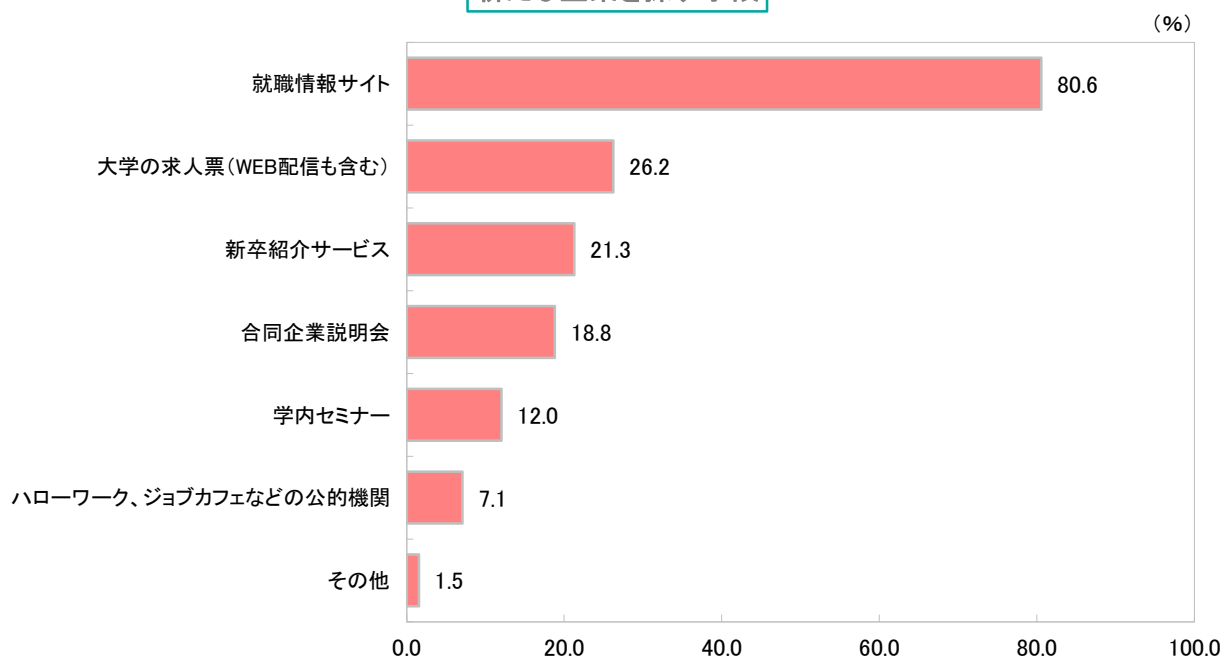
今後のエントリー予定社数を 1 社以上と回答した学生に、新たな企業を探す手段（ツール）を尋ねると、「就職情報サイト」が 8 割超（80.6%）で圧倒的に高く、序盤だけでなく、長く企業探しのメインツールとして利用されていることがわかる。

6 月 1 日現在の持ち駒企業数

	全体	内定あり	内定なし	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	4.0	3.7	4.3	4.5	4.4	3.2	2.9
これから受験予定の企業数	2.4	1.9	2.9	2.7	2.8	1.8	1.2
今後のエントリー予定社数	2.3	1.4	3.2	2.8	2.3	1.8	1.7

(社)

新たな企業を探す手段



(%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
就職情報サイト	80.6	86.5	82.0	77.1	59.4
大学の求人票 (WEB 配信も含む)	26.2	21.8	36.0	22.9	25.0
新卒紹介サービス	21.3	19.5	22.5	18.6	31.3
合同企業説明会	18.8	24.1	16.9	17.1	6.3
学内セミナー	12.0	13.5	11.2	8.6	15.6
ハローワーク、ジョブカフェなどの公的機関	7.1	6.0	11.2	2.9	9.4
その他	1.5	2.3	2.2	0.0	0.0

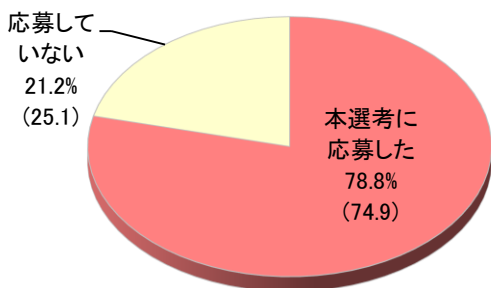
(%)

7. インターンシップ参加企業の本選考への応募と内定

早期に学生にアプローチする手段としてインターンシップを実施する企業が増加しているが、実際にインターンシップ参加企業に応募した学生はどの程度いるだろうか。インターンシップ参加経験のある学生に尋ねたところ、「本選考に応募した」との回答は、前年調査 (74.9%) を上回り 8 割近くに上った (78.8%)。調査時点のインターン平均参加社数は 5.1 社で、本選考応募社数は 3.3 社。高い割合で応募していると言える。本選考応募者のうち実際に内定をもらった経験を持つ学生の割合は 44.4%。内定社数の平均は 1.5 社だった。

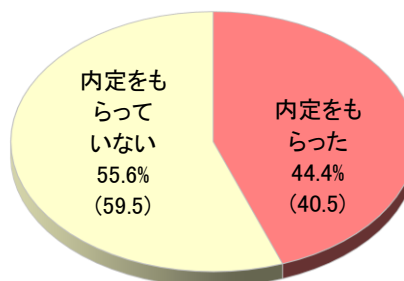
本選考に応募した理由を尋ねると、「インターンシップを通じて志望度が高まった」が最も多く (58.9%)、「インターンシップ参加学生の優先ルートがあった」(45.6%) がこれに続く。「早期選考だった」(34.2%) が前年より 6.2 ポイント増えており、インターン参加学生の本選考を早い時期から進める企業が増加したようだ。

インターン参加企業の本選考の応募



* インターンシップ参加経験者が回答

インターン参加企業からの内定

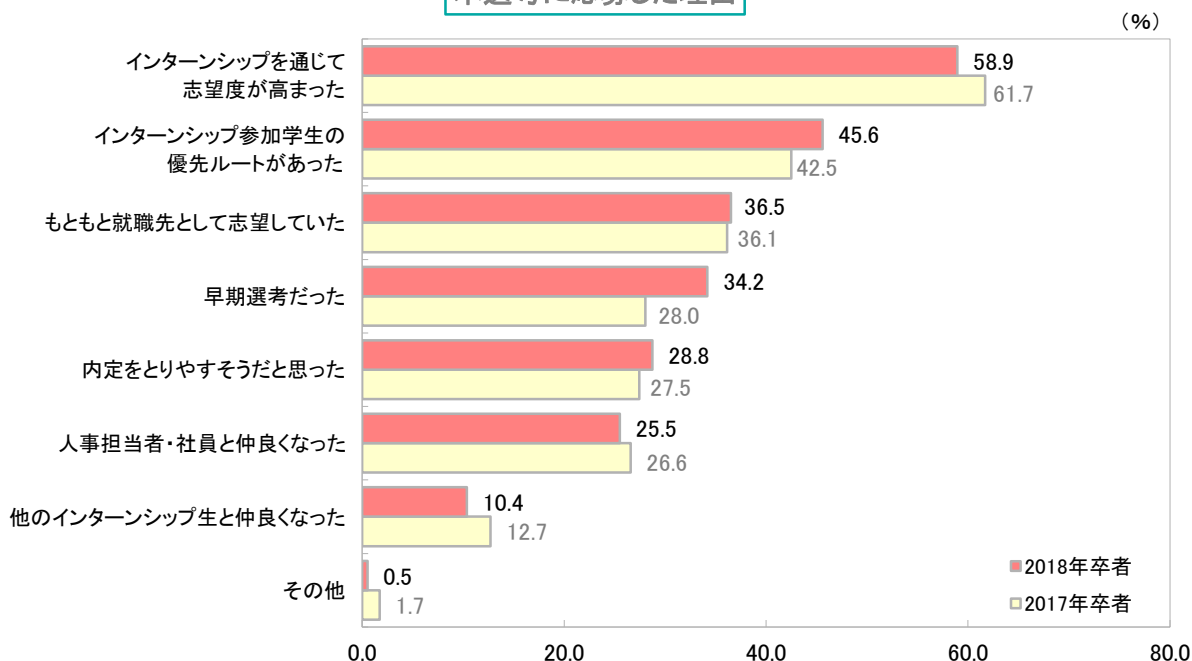


* インターンシップ参加企業の本選考応募者が回答

	インターン参加社数	うちプレエントリー社数	うち本選考応募社数	うち内定社数
2018年卒者	5.1社	4.0社	3.3社	1.5社
2017年卒者	4.5社	—	2.8社	1.3社

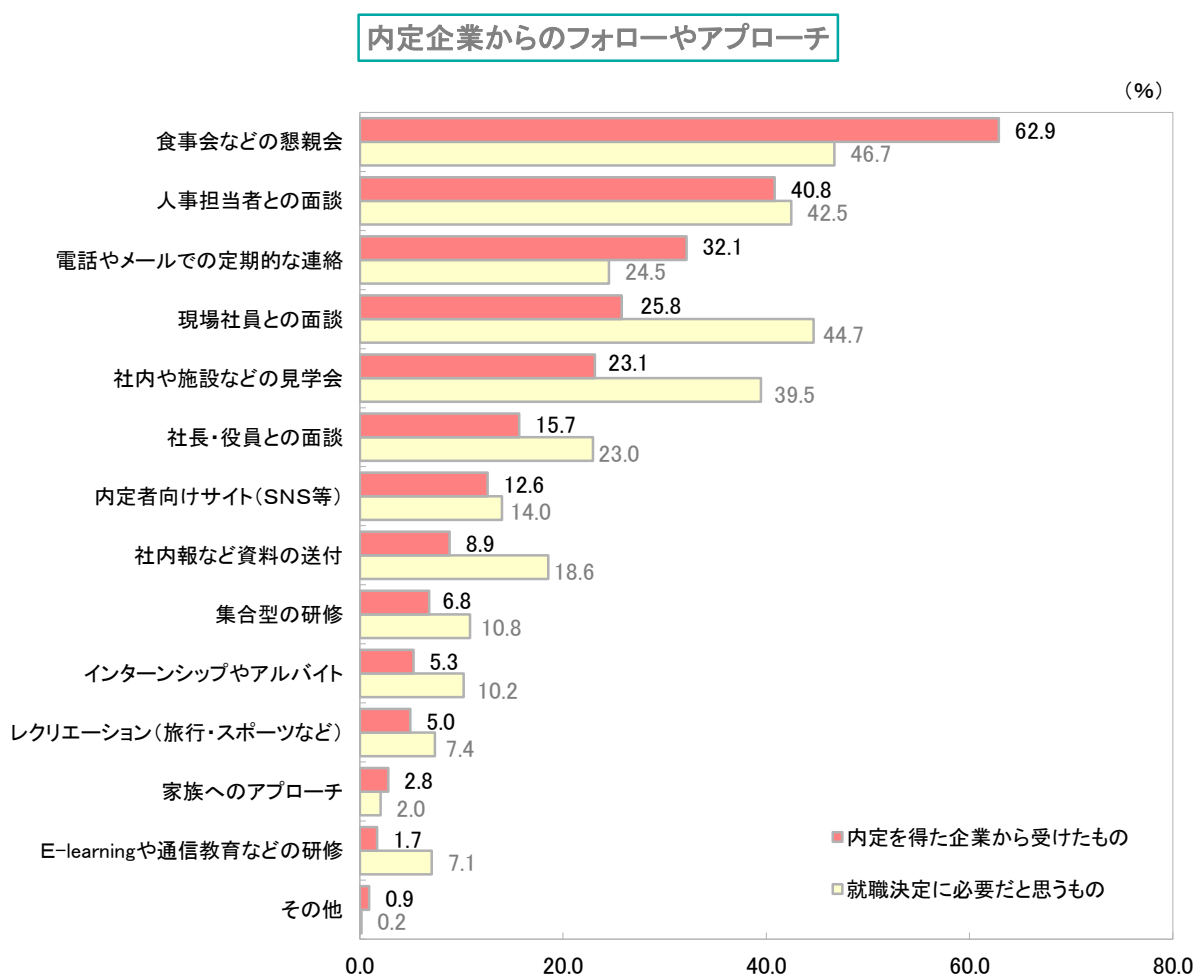
※それぞれ、経験者を分母に平均社数を算出

本選考に応募した理由



8. 内定後のフォロー

内定を得た企業からこれまでに実際にあったフォローを尋ねたところ、「食事会などの懇親会」が6割を超えて最も多く（62.9%）、次いで「人事担当者との面談」（40.8%）だった。一方で、内定を得た企業に就職するかどうかを決めるために必要だと思うフォローについても尋ねると、最も多いのは「食事会などの懇親会」（46.7%）で、僅差で「現場社員との面談」（44.7%）、「人事担当者との面談」（42.5%）などが続き、分散している。学生によって就職決定に必要なとするフォローは一様ではないことがわかる。中でも「現場社員との面談」「社内や施設などの見学会」は、実態よりも希望する学生が多く、企業が早い段階で実施することでスムーズな内定承諾につながる可能性もある。



■内定者集合の内容

○内定者合宿が 2 日間の泊りがけで開催された。内容は、内定者同士の相互理解や会社理解を促進するものであった。<5 月下旬参加/サービス>

○6 月 3 日に研修・懇親会で丸一日拘束があった。<6 月上旬参加/金融>

○社員との座談会、および職場見学。<4 月中旬参加/製造>

○会社の業界内での立ち位置を調べ、魅力を後輩に伝えるつもりでポスターを作成し、グループごとに発表した。<6 月上旬参加/製造>

その後、社員(主に人事部)と内定者での懇親会。

○内定先企業の CSR 活動に参加。エグゼクティブの方々も参加し、内定者と気軽に話をしていた。<5 月上旬参加/金融>

■選考結果に納得できない学生のコメント

選考試験の結果 (不合格) に納得できない経験を持つ学生に、その理由を尋ねてみた。

- 選考には関係ない面談と言っておきながら落とされた。 <文系男子>
- 最終面接まで進み、面接も失敗したところが見当たらず、「4月を一緒に迎えましょう」という言葉をいただいたのにもかかわらず落ちたため。 <理系男子>
- 人事の方にすごく好印象を与えることができていたから。というのも、「名前覚えてからね！あなたみたいな人を待っていた！」と言われていた。 <文系男子>
- 学生一人あたりに割かれる時間が非常に短い集団面接で落とされ、学生をしっかり見て判断していると感じられなかった。 <文系女子>
- 二次面接で、志望動機などは聞かれずにアルバイト経験について深掘りされ、気持ちよく話せたのに落ちたから。第一志望だったので、なぜ入りたいのかを深掘りして欲しかった。 <文系男子>
- 前の人の面接時間が押しすぎて、時間調整のために早めに面接を切り上げられた。 <理系男子>
- 圧迫面接で、ふーん、へー、そうなんだ、しか言われなかった。 <文系女子>
- 面接で「当社のCMについてどう思うか素直に教えてほしい」と言われて素直に答えたら、私は違うと思うと言われたあげく、反論の余地をくれないまま質問を変えられたから。 <文系男子>
- 事前に面接と言われていなかった。会場へ行ってみたら、予定の時間よりも20分以上早く急遽呼ばれ、しかも役員面接であった。役員の方はペン回ししながらで、完全に聞く態度がなくなってしまった。 <理系女子>
- 面接時間が予定の半分だった。面接官の息子の自慢話が多かった。 <文系男子>
- リクルーターが、学生に働く意欲をなくさせるような態度だったから。 <文系女子>

■就職活動について思うこと

- 6月1日になって、周りで内定を持ってない人たちが一斉に複数社の内定をもらっている光景を目にして、少し異様に感じた。 <文系男子>
- 早い時期に内定が出る人も多いですが、それ故に「この会社で本当にいいのか」と悩んでいる人も多い。 <理系女子>
- 通過の場合はいつまでにどのような手法で連絡するのか、面接の終わりには明言してほしい。それを明言していただければ、サイレントお祈りでも納得がいく。 <文系男子>
- 連絡の遅い企業の信頼度、志望度がどんどん下がっていく。選考が不透明で不信感を抱いた企業は今後顧客としても絶対に利用したくないと思ってしまう。 <文系女子>
- メディア等で報道されている「売り手市場」は、大手企業ではまったくあてはまらないと感じた。 <文系男子>
- 内定を取ることがゴールではなく、就職後が本番だと考えている。そのため、企業も学生も選考で嘘をつくべきではなく、就職前と後のギャップをできるだけ埋めることが重要だと思う。 <理系女子>
- 求める人材像と、ESや面接時の質問が対応しているのか疑問に感じることもある。 <文系男子>
- 特に理系の院生に言えることですが、研究と就職活動を両立することは教官の理解が得られない場合非常に厳しいため、早い時期から動き出すことが難しい学生もいると思います。そのため企業の選考の時期を短い期間に揃えて行ってほしいというのが就活をしていて感じた思いです。 <理系男子>
- 交通費の負担額が地方の学生は大きく大変なので、地方での選考を増やしてほしい。もしくは、テストセンターのような公会場でSkypeなどを利用した面接制度ができてほしいと思った。 <文系女子>
- インターンシップに参加していたことで、業界研究や仕事についての理解を進めることができただけでなく、選考に早期に参加できたことがプラスだったと感じている。 <文系男子>